

## 『挨拶を言葉にする大切さ』

日野中学校 2年 鈴木 萌杏

みなさん、この世界を明るくするために何が大切だと思いますか。私は挨拶が一番身近で大切だと思います。

私のクラスでは、「挨拶を自分から積極的に行う。」という目標があります。しかし、朝の会の「おはようございます。」の挨拶も、授業の始まりと終わりの挨拶である「お願ひします。」「ありがとうございました。」も、聞こえるか聞こえないか程度の声量しかありません。中学校に進学してからよりも、幼稚園や小学校の頃の方が、今よりも気持ちよく、大きな声で挨拶ができていたと思います。

では、なぜ年齢が大きくなるにつれて挨拶をすることが難しくなるのでしょうか。

実際、私も中学校に進学し、小学校の頃よりも挨拶する回数が減ったと実感しています。それは、心が成長していくにつれて、「周囲の視線を気にするようになったこと」が原因だと考えています。挨拶することに恥ずかしさや抵抗を感じている中学生は少なくないと思います。だから、私から行動して、まずは自分のクラスを変えていきたいです。

そのために必要なことは「雰囲気づくり」です。例えば、授業中に先生が投げかけた質問や問題に対して答える場面では、一人で手を挙げるよりも、誰かが手を挙げてくれたら、安心して発表できる人もいるはずです。挨拶も同じ様に、誰かが大きな声で気持ちの良い挨拶をすれば、次々と連鎖して恥ずかしがらずに挨拶できるクラスになっていくと思います。挨拶を交わすことで相手との距離が縮まり、信頼関係も深まっていくと思うので、積極的に挨拶をしていきたいです。

では、みなさん、日本には「おはよう。」「いただきます。」「さようなら。」など、いろいろな挨拶がありますが、この地球上で、人と人との繋がりを敵意の挨拶は何だと思いますか。私は「ありがとうございます。」という感謝の気持ちを表す挨拶だと思います。

私が祖母の家に行くと、いつも私の大好きな食べ物ばかりを料理して迎えてくれます。そんな祖母に対して、心の中では感謝しているけれど、直接「ありがとうございます。」と言葉にして伝えていませんでした。でも、この前祖母の家に行ったときに、「いつも私の好きなものばかり作ってくれてありがとうございます。」と言いました。すると、祖母は満面の笑みを浮かべて、「おいしかった？よかったです！また作ってあげような。」と言ってくれました。祖母の笑顔を見たときに、私は、感謝の気持ちを言葉にして伝えることの大切さを改めて感じました。

さて、日本では、感謝の気持ちを相手に伝えるときに、「ありがとうございます。」と言いますが、みなさんは外国語で感謝の気持ちを伝えたことがありますか。外国に行けばその国の言語で話さなければなりませんが、長い文章で伝えるのは難しいです。しかし、感謝の気持ちを表す言葉は短くて伝えやすいものが多いです。みなさんも、英語の「サンキュー」、韓国語の「カムサハムニダ」、中国語の「シェイシェイ」、フランス語の「メルシー」など、いろんな国の「ありがとうございます。」をご存じなのではないでしょうか。

私は先月、大阪・関西万博に行ってきました。いろいろなパビリオンがある中で、「コモンズパビリオン」「アメリカパビリオン」「インドネシアパビリオン」に入りました。私は英語しか話せませんが、いろんな国のスタッフさんと少しだけ英語で会話をしたり、写真撮影をしたりして関わることができました。人生で初めて、たくさんの外国の方々と交流することができたし、会話の中で、国を越えて「ありがとう」を伝えられ、世界はこんな風に繋がれるのだと嬉しくなりました。

たくさんの挨拶や「ありがとう」が溢れる社会になれば、今よりもさらに優しさや笑顔が溢れる世界になると思います。みなさんも、「笑顔で挨拶」始めませんか？